

シリーズ

とき

季のことば「秋」



「ことば」によって

豊かな四季を楽しむ私たち日本人。

名句や名歌を訪ねながら、

日本文化の豊かさをご紹介します。

季ときのことは秋

私たち日本人は、季ときに名前をつけ、豊かな四季を楽しむ術をもっています。季ときのことはの美しさを感じ、季節のうつろいの中に

「ゆとり」をみつけてみませんか。



秋を代表する花、菊は靈力があり、長寿の効果があると言われていました。これは、罪を犯して中国の深い山奥に流されたものの、菊の露を飲むことによって不老不死を得たという菊慈童の逸話からきたものです。

旧暦の9月9日(今年は10月4日)の重陽の節句では、前日の夜に菊の花に綿をかぶせて夜露をしみ込ませて香りを通し、翌朝、その綿で身をぬぐって長寿を祈る「菊の被綿きせわた」という風習がありました。また、この日に摘んだ菊の花びらを天日に干して枕に詰めたものを「菊枕」といい、晩秋の季語となっています。菊の香りに誘われて恋しい人が夢に現れるということで、女性から男性に贈られていたそうです。

「菊日きくびより和」は、大気が澄み、晴れ渡った高い秋空をさす季語で、「秋晴あきばれ」とも言われます。爽やかな空気と穏やかな一日を感じさせる言葉で、この時期になると、菊花展や菊まつりが各地で開かれます。





菊の香や流れて草の上までも

加賀千代女

【季語】菊

亀戸天神社 菊まつり

秋のことは

雀蛤となる

七十二候の1つでもある季語。古来、秋口になると雀が里からいなくなるのは、海で蛤になるからと考えられていた。

新豆腐

秋に収穫された新大豆で作られた豆腐。「新酒」や「新蕎麦」と同じように、収穫を祝う気持ちが込められている。



山粧う [やまよそおう]

美しい紅葉に彩られた秋の山のこと。中国北宋の山水画家、郭熙(かくき)の『臥遊録』に記された、山を擬人化した一節。

花芒 [はなすすき]

すすきの穂は花の集まりで、獣の尻尾に似ていることから「尾花」とも呼ばれる。「花芒」は花穂が開いて白くなったもの。

灯火親しむ

日が短くなって夜が長くなる秋は、読書や団欒を楽しむのに最適の季節。8～9世紀頃の中国の文人の言葉が由来。

薬掘る

秋になって草木が枯れる前に、千振(せんぶり)や竜胆(りんとう)など、熟した薬草の根を掘ること。

相撲

相撲は五穀豊穡を祈願し豊作に感謝する神事から生まれた行事。宮中で「相撲節」が行われていたため秋の季語となった。

鶴来る

北方から鶴が飛んで来るのは10月頃。優美に飛ぶ様は霊鳥として崇められ、鶴をモチーフにした伝説が全国にある。

秋の名句

昼は日を夜は月をあげ大花野

鷹羽狩行 【季語】花野

星月夜空の高さよ大ききよ

江左尚白 【季語】星月夜

鳥わたるこきこきこきと罐切れば

秋元不死男 【季語】鳥渡る

葡萄食ふ一語一語の如くにて

中村草田男 【季語】葡萄

運動会午後へ白線引き直す

西村和子 【季語】運動会

秋の名歌

金色のちひさき鳥のかたちして

銀杏ちるなり夕日の岡に

与謝野晶子

ただひとつ風にうかびてわが庭に

秋の蜻蛉のながれ来にけり

若山牧水

秋になれば秋が好きよと爪先で

しずかにト音記号を描く

穂村弘